

花とともに暮らすと 人はもっと豊かになれる

Flower Bottle
—フラーボトル

生のお花を、鮮やかな色
と形のまま保存するため、
特殊な乾燥加工を施して
ボトルのなかに閉じ込め
たものをフラーボトル
と呼びます。

贈り物やお見舞い、記念
すべきできごとの思い出
を残すために、あなた
のお花をフラーボトルに
してみませんか？
あなたの思い出の花を、
ぜひお持ち下さい。





フラワースタジオ ミヨコ代表

ふにゅう みよこ

船生 三代子

ープロフィール

1951年 福島県生まれ。1998年 日本フラワーボトル協会へ入会。2007年 第4回日本フラワーボトルコンテストにて最優秀賞を受賞。2011年の東日本大震災で活動休止するも、2013年フラワースタジオをリニューアルし現在に至る。

ー資格および認定

日本フラワーボトル一級講師。一般社団法人ブライダルフラワーコーディネーター協議会検定一級。IFA 国際フラワーアレンジメント協会認定クリスタルデザイナーほか

花を通じて人と出会い、 出会いを通じて人生が豊かになった

花とは、私たちに癒しを与えてくれるものだと思います。花を見てイヤだと思う人はほとんどいないはずです。四季折々の花を愛でるのも、誰かの人生の門出で花を贈るのも、花が誰かを癒すものであり、その花に自分の気持ちを託すからです。そして、できることなら、花を見た時の思いや、誰かに花を渡した時、渡された時の感動を一生忘れたくないと、多くの人が願うのではないのでしょうか。

花に興味を持ったのは、クリスマスのリースを野山の蔓を使って作ったのがきっかけ。もともと自然の野草や野花に興味がありました。小学生のときから、華道をしていた叔母の姿をよく見ていました。ヨーロッパのアレンジメントが私のスタイルですが、ものづくりの根底には日本の華道があります。色彩や季節感、花の盛りつけ方などに少し特徴が出ているかもしれません。

フラワーボトルをつくるためには、花の形を崩さないように瓶に入れ、乾燥剤を入れてしばらく置くのですが、完成品に乾燥剤の粒が残らないように、手作業で瓶から取り除いていきます。気の遠くなる作業ですが、人は美しいものを直感的に感じます。粒ひとつ残るだけで、どこかに違和感を感じる花になってしまいます。ですから、自然の美しさを守るため、出荷前のチェックには時間を使います。

フラワーボトルの魅力は、花を受け取ったり、花を見たときの思い出を長く残すことができるということ。お祝いの花だけでなく、趣味で育てたお花や珍しいお花が咲いたときなど、思い入れのある花を記念に残すこともできます。いずれは枯れてしまう花も美しいですが、ボトルの花を見ていると、枯れない花の美しさもあるのだと強く感じることができます。ぜひ手に取ってお楽しみ下さい。



信頼するスタッフ達とひとつひとつ手づくりでお作りいたします。



細部まで徹底し、美しさを閉じ込めます。



思い出の花だけでなく、思い出の瓶につめるのも一興。



2001年に制作された牡丹。保存状態によっては長く楽しめます。

フラワースタジオ ミヨコ
flower studio MIYOKO

福島県いわき市平字紅葉町41-3 (いわき駅より徒歩10分)
TEL&FAX 0246-23-2228 E-MAIL miyokofunyu@outlook.com
www.iwaki-j.net/shop/f-studio